

ネイチャークラブ会報

SINCE 1996



JREU



第 202 号

発行日：2025年2月3日

発行責任者：西垣 栄義



JR東労組盛岡地本ネイチャークラブ 秋の収穫祭開催

2024年11月30日に盛岡地本こぶし会館にて「**盛岡地本ネイチャークラブ秋の収穫祭**」を開催しました。当日は参加者同士で二種類の芋の子汁を作り、出来上がった芋の子汁と共に交流会を行いました。育てた里芋を使用して参加者自ら芋の子汁を作るというネイチャークラブならではの取り組みで、貴重な体験ができました。**芋の子汁おいしかった！**



～ネイチャークラブ会員からの投稿～

11月30日、盛岡地本ネイチャークラブの秋の風物詩「収穫祭」が開催され、地本の枠を越えて20名の仲間が参加しました。

今年は趣向を凝らし、地本ネイチャークラブ幹事会で「里芋」の栽培に挑戦し、事前に収穫しておいた里芋を参加者に調理してもらい「芋の子汁」を堪能するという企画にしました。年代も出身地も様々で、味付けに苦慮した班もあったようです。

里芋の栽培では、OB会・熊谷さんに畑を提供していただき、水やりや草取り、土寄せなど、ご指導頂きながら無事収穫まで至ることができました。年々暑さが増し、想定を超える雨量や突然の雷雨など、「温暖化に疑う余地がないこと」を身を持って実感しています。

今後も田畑運動などを通じて、自然に生かされる自分であることを自覚し、自然と共に生きる社会を仲間たちと共に創り出していきます。

盛岡地本ネイチャークラブ副部長 細越 昭弘

2024年11月30日、盛岡地本ネイチャークラブ主催「秋の収穫祭」がJR東労組盛岡地本こぶし会館にて開催されました。

当日は、本部ネイチャークラブ西垣部長、内藤事務長、高杉幹事、栗脇幹事、横浜地本の仲間にも参加いただきました。

冒頭、芋の子汁を2つの班に分かれて調理しました。今回の目玉は盛岡運輸区分会で育てた里芋でした。暑い夏にも負けず成長した大きな里芋に一同は驚愕しました。野菜の切り方や味付けに対して「あれでもない、これでもない」と個性や好みの議論が巻き起こり、終始和やかに調理は進んでいきました。調理途中、鍋の大きさに対して材料が多く野菜が入りきらないという事態となりましたが、そこは団結力でカバーしながら2種類の芋の子汁が完成しました。

その後、盛岡地本浅沼副委員長より「会社の安全、職場問題等」の報告・提起をしていたのち、懇親会を開催しました。久しぶりに会った仲間たちは日ごろのストレスなどお酒の力も借りながら発散する姿をあちらこちらで見ることが出来ました。芋の子汁を頬張りながら会場はお開きまで静かになることは無く、闊達な議論でサークルの「横の糸」「仲間の絆」を再確認する場となりました。

参加されたみなさん、ご協力をいただいた皆さまへこの場をお借りしまして感謝申し上げます。大変ありがとうございました。来年度も継続して「山菜まつり」等を開催していくと思いますので、引き続きよろしく願い申し上げます。

盛岡地本ネイチャークラブ幹事 戸田 博明

